

薬草栽培だより

No. 109 令和6年9月18日

富山県薬事総合研究開発センター

薬用植物指導センター

〒930-0412 中新川郡上市町広野 2732

電話 076-472-0801

FAX 076-472-0353

薬用作物生産技術確立プロジェクトチーム

1. 気象経過と季節予報

月平均気温は、平年に比べ7月は27.8℃(平年比+2.3℃)、8月は28.6℃(平年比+1.7℃)と高くなりました。月降水量は、平年に比べ7月は265.0mm(平年比108%)と並、8月は53.0mm(平年比26%)と少なくなりました。

向こう1か月の季節予報では気温は平年に比べかなり高いと見込まれます。また、降水量は平年並と予想されますが、降雨後、雨水が停滞しないよう、ほ場内の溝と排水口の点検・補修をしてください。

2. シャクヤクの栽培管理

(1) 1～3年生株

ア 茎葉の処分及び追肥

枯れ上がった茎葉には、斑葉病等の病害の胞子が付着し、来年の発生原因となることから、できるだけ地際から刈り払い、ほ場外に搬出して処分してください。

追肥は以下のとおりに施用してください。

(施用時期 10月：10 a 当たり)

1年生株(植付の翌年)	発酵鶏糞	150kg
2～3年生株	発酵鶏糞	300kg
	燐加安15号	40kg

ビニールマルチ栽培の場合、発酵鶏糞は鎌等でマルチに穴を開け植株の中間に、化成肥料は株元に施用してください。

(2) 4年生株

ア 掘り取り(収穫)の目安

薬用品種「梵天」は、栽培年数4年を経た株を掘り取り、根を出荷します。1株当たりの茎数は20本、生根重量が1.5kg位を目標としますが、生育量が不足している場合は、掘り取りを翌年にしても構いません。ただし、5年を超えて栽培すると根に「す」が入り、薬用としての品質が低下するのでご注意ください。

イ 掘り取り及び出荷調製

9月中旬～10月中旬頃、タガネ等で株を2～4個に分割し、スコップや鍬等で根ごと掘り起こします。芽の付いた株からゴボウ根を外し、袋(当センターが準備するガラ袋など)に入れます。出荷まで保管は、根が絶対に乾燥しないように、日陰の涼しい場所で地面に直接置いてビニールシートを被せるなどし、根の表面が白くなるなど乾燥しそうであれば軽く散水します。出荷期間は10月中旬～11月中旬で、準備が整った生産者の方は、一時保管場所である当センターまでご連絡ください。

掘り取りが初めての方は、掘り取り調製方法について、別途ご案内する研修会(本だより末尾参照)でご説明します。研修会にお申込みの上ご参加ください。

(3) 新植

ア ほ場の準備

額縁排水溝の設置と排水口への連結など、事前の排水対策を実施した上で、基肥(10 a 当たり)に発酵鶏糞300kg、苦土石灰100kg、過磷酸石灰60kgを全面に施用し、よく耕耘します。1条植えでのうねサイズの目安は、うね幅：140cm、うね裾幅：80cm、うね高：20cmです。うね立ては収穫作業の前に完了するようにします。

面積が1aより大きい場合は、雑草対策のため黒マルチ(厚さ0.03mm)の被覆(ビニールマルチ栽培)を推奨します。

イ 苗の調製

出荷調製後の芽の付いた株から、植付け用の苗を調製します。苗当たり3～5つの芽が付くように、頭根部を分割します(写真)。

苗にはゴボウ根を付けず、新しく出た根を収穫出来るようにします。

苗には、根黒斑病や根こぶ症状などの無い、健全な親株を用います。また、生育不良株からも苗を採取しないようにします。



写真：薬用品種「梵天」の苗

ウ 苗の定植

定植が遅れると新根の発生が不足し、翌年の生育が不良となることから定植は地温の高い10月下旬までが望ましく、やむを得ず遅れる場合でも11月中に行ってください。

株間は40～50cmとし、芽を上にして苗を植え付けます。覆土は3～5cmとします。ビニールマルチ栽培の場合は、風によりマルチがずれないように、植え穴に土を被せてマルチを押さえませます。

3. トウキの栽培管理

(1) 抽苔開花株の抜き取り

花が咲いた株は根が細くなり、薬用になりません。抜き取っては場外で処分してください。

(2) 追肥 (10 a 当たり)

ダニによって葉が全部枯れた株でも根が残っていれば、葉が再生してきますので、あきらめないでください。9月下旬頃硫酸を20kg、又は尿素を10kg 追肥し葉の生育を促します。また、2回目の追肥を施用していない方は、すぐに化成肥料(N:P:K=15:15:15)を20kg 施用してください。

(3) 掘り取り調製法

①掘り取りは、11月に入って、葉の先端部が少し黄色味を帯びた頃に行います。長く置けば根が充実しますが、富山では冬のしぐれがあり、作業性が悪いため、ほ場の面積、作業量を判断して、11月下旬までに掘り終えるようにしてください。

②葉を付けたまま株を掘り起こし、根の土を払い落とした後、3～4株ずつ束ね、風通しの良い所(雨が直接かからない軒先等)でハサ掛け(稲架掛け)のように干し、自然乾燥します。

③掘り取り後、根を積み重ねると数時間で堆積発酵し、中心部分が腐敗する原因になります。腐敗が始まると次第に全体に広がり、多くの部分を切除しなければならなくなります。手間がかかり、大きな損失となることから、ハサ掛けまで時間を置く場合は、地面に重ならないように広げて置きます。

④ハサ掛け後は翌年の2～3月頃まで、そのまま自然乾燥しますが、途中、土が半乾きになった頃に、はたいて土を落とし、乾燥しやすいようにします。

⑤この後、生薬に仕上げるには「湯通し」の作業が必要です。設備がないために作業ができない場合は、この作業を行う前の状態(一次乾燥根)でも出荷できますが、可能であれば「湯通し」を行い、増収を目指してください。初めて「湯通し」をされる方は、当センターへお問い合わせ下さい。

4. 種苗の販売について

当センターでは、薬用植物の栽培普及のために、本県で出荷可能な品目の種苗を生産・供給しています。希望される方は当センターまでご相談ください。

5. 薬用植物指導センターからお知らせ

(1) シャクヤクの収穫調製研修会

日時 令和6年10月 日時未定

場所 山神協同営農 シャクヤク栽培圃場

(小矢部市)

申込 富山県農林水産部農産食品課

電話：076-444-3284

FAX：076-444-4410

(2) 薬用植物講演会

日時 令和6年11月21日(木)

14:30～16:00

場所 富山県民会館704号室

(富山市新総曲輪4-18)

演題 「秋田県における薬用作物栽培の

取り組みについて」

講師 秋田県農業試験場 野菜・花き部

上席研究員(兼) チームリーダー

横井 直人 先生

申込 薬用植物指導センター

電話：076-472-0801

FAX：076-472-0353